

これまでの委員意見の整理(概略版)

	子ども(～10代)	子ども・若者	若者(～20代・30代)
人格的自立 (自立に必要なこと)	相互理解・認め合う		
	意見の表明・話し合い・反映		
	主体性の尊重		
	大人が子どもを尊重、対等な関係性		
	子ども・若者も支え手になる		
	その他、自立に向けた人格形成		
	子ども・若者に合わせた情報提供		
	居場所		
	子どもの権利・人権		
	遊び		
		失敗できる・チャレンジできる	
		自己肯定感、自分らしさ	
		未来・将来の想像・希望	
		思いやり	
		創造力	
	受援力		
自立の 阻害要因 への対応	困難への支援		
	支援・連携のしくみ		

経済的 自立		困難への支援(ひきこもり支援)	困難への支援(自立支援)
-----------	--	-----------------	--------------

社会的 自立	地域社会・まちづくりへの参画		
	社会への関心を持つ		

これまでの委員意見の整理(詳細版)

	子ども(～10代)	子ども・若者	若者(～20代・30代)
人格的自立(自立に必要なこと)	相互理解・認め合う	相互理解・認め合う	相互理解・認め合う
	学校や幼稚園など、多様な人が集まる、出会いの場を大切に。	多くの人と出会い、自分と他者を理解する	[若者相談では、自己肯定感の低さや不安を訴えている子が多い。違う価値観を知らないことで、差別が生まれ、自己肯定感が低下⇒違う価値観を教えてくれる仲間が大切。できる子もできない子話を理解することで新しい視野が開けて成長できる。
	子どもの特性はさまざま。学齢が上がり、周囲と同じようにできない子は、責められることで自己肯定感が低下⇒大人がその子の成長の段階を理解し、寄り添ってあげられる社会に	違いを楽しむ	
		認め合える、自分と違う考え方を受け入れる、ありのまま受け入れる、多様性を認め合う	
		[認めてもらうことは自信につながるので、お互いに認め合うという要素を。	
	意見の表明・話し合い・反映	意見の表明・話し合い・反映	
	子どもにやさしいまちづくり	子ども・若者が発言したものの具現化	
	子どもみらい会議など、子どもの提言を活かす。	意見の表明	
	子ども未来会議の提言の受け皿	話を広げ、他者に意見を求める経験	
	未来会議	人と話し合う場を(結果はオープンに)	
	子どもの自由な発想、社会の価値変化とリンク。⇒子どもが自分の意見を尊重できて、当たり前のように発言できるように。	意見の傾聴	
		意見の反映	
	意見を出す場を保証する、子どもによるまちづくり提案制度、意見が現実化する、アイデアを出し合い・話し合う場、誰でもチャレンジできる	討論のみならず、話し合いを経て意見を進化させる	
		思いを発信する、アウトリーチ	
		自分にできることを実行し、発信していこう	
	主体性の尊重	主体性の尊重	
子ども主体	参画、子どもの主体性、自由な選択肢、子ども・若者からの意見・主体性、		
子どもが受け身ではなく主体的に発信	子ども・若者の主体性を強く打ち出すべき。		
子ども主体の成長を支援する体制、サポートのためのネットワーク			
その子の個性(良さ)を活かして、できない部分を補完するように支援。			

子ども(～10代)	子ども・若者	若者(～20代・30代)
子どもが自分の意見を持てるように、親への働きかけを。		
大人が子どもを尊重、対等な関係性	大人が子どもを尊重、対等な関係性	
地域の大人が、子どもとのつながりや、支援する役割を持てるように働きかけを。	子ども・若者を取り巻く問題を、大人の問題としてとらえるべき。	
大人が子どもの力を信じる、大人と子どもの対等性	対等な関係性	
大人が子どもの中に入っていく		
幸せの価値観は時代で変化。子どもの個性や多様性を大人が大切に。		
子ども・若者も支え手になる	子ども・若者も支え手になる	
補完性、子どもから子どもへ、エンパワメント、互いに支え合う、お互いを助け合う	周囲が子ども・若者を支えるだけでなく、子ども・若者同士が互いに支え合う要素を。	
子どもも、子どもの支援について考え、補完的に支援する感覚を身につけることが未来のまちづくりにつながる。	大人の助けがない、若者から子どもへのサポート	
その他、自立に向けた人格形成	その他、自立に向けた人格形成	
成長を支える、健康な心と体を育む	chance、challenge、change	
学力	幸福、希望、楽しい、ワクワク、ドキドキ	
スポーツ	何でも面白い	
世界の課題に目を向ける	規範意識	
地域や自然との関わりを大切にしよう	健全な意思決定 ※健全=見通しをもつ、自己理解、言葉で伝える、共感、練習	
SDGs、ESD	人格形成を高める	
エコマップ(私の資源)	自立に必要な知識教育	
多摩の自然や文化を大切に	自分を知る=心理士の活用	
環境	行動に移す、体験	
国際理解	参加、参画	
伝統文化		

子ども(～10代)	子ども・若者	若者(～20代・30代)
郷土愛		
子ども・若者に合わせた情報提供	子ども・若者に合わせた情報提供	
きちんと説明を受けられる、情報を受け取れる、メディアリテラシー、子どもの話をきく、子どもの代理人(コミッショナー)	子ども・若者に情報が伝わる仕組み SNS	
居場所	居場所	
居場所をつくる、子どもの居場所	自分が居ていい場所、認めて・誉めてもらえる場(機会)を増やす	
子どもの権利・人権		
子どもの権利		
子どもの権利条約4つの原則		
子どもの権利は、一般的な基本的人権に加えて、子ども特有の配慮が必要。子どもの権利をみんなで共通認識に。		
人権		
遊び		
遊び		
自由な遊び		
	失敗できる・チャレンジできる	
	安心して失敗できる場づくり	
	失敗しても良い	
	挑戦する内容を選べる	
	やりたいことの実現の支援	
	大人になる練習の場作り	
	自己肯定感、自分らしさ	
	自己肯定感、自分を信じる力、自己肯定感を高める、自分の持つ力を信じる	
	自己肯定感	
	その子らしく、ありのままを受け入れる、それぞれの違いを認める	

子ども(~10代)	子ども・若者	若者(~20代・30代)
	自然体=私らしく	
	未来・将来の想像・希望	
	子ども・若者が希望を持てるまち	
	未来や将来の姿の想像	
	ロールモデルとの出会い	
	思いやり	
	存在を大切にされる、相手を思いやる気持ち、気持ち・思いを尊重	
	慈愛	
	思いやり	
	創造力	
	創造力	
	ゼロから1を創る力	
	受援力	
	助けてと言える力の向上	
	一人で抱え込まない、相談できる	

	子ども(～10代)	子ども・若者	若者(～20代・30代)
人格的自立 (自立の阻害要因への対応)	困難への支援	困難への支援	困難への支援
	いじめ	不登校・ひきこもり予防	青年期の自立支援の取組の要素を。
	ピア・サポート、SOSのキャッチ	不登校やひきこもりなど、誰ひとり取り残さないように。	
	奨学金	福祉	
	生まれた環境に左右されず、チャレンジできる	衣食住	
	困難を減らす、社会的な困難を減らし親世代に	LGBT	
		家族への継続的支援、親支援	
	支援・連携のしくみ	支援・連携のしくみ	
	各機関との連携、子どもに関連する総合的部署調整権限、関係機関の連携する仕組み	切れ目のない支援、子ども・若者への支援	
	いつも気にかけてくれる存在、子育ての社会関係資本、地域社会の活性化、子どもの守護神	行政内外の連携、子ども・若者が集う場との連携	
		ヨコのつながりを強く	
		支援終結の際の連絡会(バトンタッチ)	
		支援の穴をどうカバーするか	
		具体的な支援ネットワーク図	
		包括支援	
		包摂	
		支援者を統一(統率)して増えやすく	
		制度や年齢による支援のはざまにおける、連携のしくみ。(連携の手渡し・バトン)⇒行政、市民、地域、NPO、学校、関係機関が連携する仕組み・チェック機能を	
		役割分担、地域に丸投げしない	
		責任の所在	
	センシティブな経済情報へのアクセス		
	困難・貧困について行政の把握している情報への(ある程度の)アクセスの許可		
	支援チーム個人情報の取扱い		

	子ども(～10代)	子ども・若者	若者(～20代・30代)
経済的自立		困難への支援(ひきこもり支援)	困難への支援(自立支援)
		不登校・ひきこもり予防(再掲)	青年期の自立支援の取組の要素を。(再掲)
		不登校やひきこもりなど、誰ひとり取り残さないように。(再掲)	
社会的自立	地域社会・まちづくりへの参画	地域社会・まちづくりへの参画	
	子どもが地域に参加するチャンスや自分たちが過ごす場を自分たちでつくるチャンスがあることで、地域の担い手になる学びにつながる。	自分の知識を地域の知識に welcomeに市民が人と関わり教え合う場をつくろう	
	意見を出す場を保証する、子どもによるまちづくり提案制度、意見が現実化する、アイデアを出し合い・話し合う場、誰でもチャレンジできる(再掲)	全ての世代が自分たちのできることを知り、連携していこう 共生社会	
	子どもにやさしいまちづくり(再掲)		
	社会への関心を持つ		
	世界の課題に目を向ける(再掲)		
	地域や自然との関わりを大切にしよう(再掲)		

	子ども(～10代)	子ども・若者	若者(～20代・30代)
その他	「自分らしく」は小学生には難しい。「自分の良さを活かして(見つめて)」などに。		
	子ども視察委員		
	子ども評価委員		
	子育て=親育ち		
	「世代の循環」を念頭に子どもたちが成長し、また次の世代に社会を引き継ぐ		
	子ども・若者に伝わりやすい・理解しやすい表現に。		
	子どもに響く言葉を。		
	条例はみんなが大事にするべきことを示す基盤なので、ポジティブな表現に。		
	分かりやすい表現		
	関係機関が自分事として考えられるような表現を。		
	子ども・若者に関する調査など、実態を踏まえて議論を		
	エビデンス、根拠やデータも基に⇒多くの人の気づきになる		
	定期的なふりかえり(既存の会議体の活用)		
	熱量・成果の維持		
	意見を言わない子ども・若者も元気になれる要素を。		
	分断社会に抗う		
	自立		
	持続可能な		
	保育⇒保護者⇒共有の輪が広がる		
	デジタル		
合計特殊出生率を2よりUP			
「まちづくり」を支援するコンソーシアム(共同事業体)			
継続のための「異動」を含めた組織づくり			
課題へどう着目するか			
想像できないことをどう共有するのか			
「主体的」とはどういうことなのか、言葉を重ねた方がわかりやすくなる。			